

平成 26 年度 「第 8 回 松戸市子ども・子育て会議」 会議録（要旨）

1. 日時	平成 26 年 11 月 20 日（木） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 新館 7 階 大会議室
3. 出席者	＜委員＞（50 音順） 飯沼委員、石井委員、石田委員、海老原委員、大川委員、大熊委員、沖委員、小野委員、神谷委員、鈴木委員、富永委員、永瀬委員、成瀬委員、西委員、野中委員、細井委員、森田委員、山口委員
4. 傍聴者	3 名
5. 議事	（1）松戸市子ども・子育て会議 教育・保育に関する分科会の報告 （2）松戸市子ども・子育て会議 放課後児童健全育成事業に関する分科会の報告 （3）松戸市子ども総合計画の骨子案について
6. その他	・ 市民周知について ・ 次回会議予定 平成 27 年 1 月 22 日（木） 18 時 30 分～20 時 30 分

1、開会

2、議事

○会議の成立

（事務局）

- ・ 総委員 22 名、18 名出席（欠席 4 名）。会議の成立を報告する。

○本日の傍聴の受け入れ

（事務局）

- ・ 3 名の方の傍聴の申し出あり。入室を許可する。

○議事の録音について

- ・ 議事録作成のため、了承。

（1）松戸市子ども・子育て会議 教育・保育に関する分科会の報告

（2）松戸市子ども・子育て会議 放課後児童健全育成事業に関する分科会の報告

（事務局）

事務局より、資料に添って説明。

○意見交換

(海老原委員)

選考基準表及び調整点についての質問である。保育園を利用するお母さんたちに、育休明けの該当者は多い。現行、里帰り出産などの際、上の子は2ヶ月まではお休みでき、その間保育料は払うこととなっているが、その運用は同様か。また一時退園した児童が再入所する場合に今回から更なる加点があるが、再入所までの期間をお休みして入所する場合には、加算がされるのか。

(事務局)

育児休業明けの優先利用については、入所の選考のものであるため、現在入園中の方が育児休業の間お休みをするケースとは取り扱いが違う。入所のお子さんが里帰り出産等でお休みをとるような場合には、現行は海老原委員の言われたとおりの取り扱いである。今後の取り扱いについては幼児保育課で詳細を決定することとなるが、保護者の皆様の不安になるような大きく変わることは考えていない。再入所の加点については、一旦退所して再入所する場合には、そのとおり加点される。

(石井委員)

今後、幼稚園の一時預かりが拡大していくことについて、分科会ではどういう議論があったのか。長期休暇中に一時預かりをどうしていくかなど、課題はある。また、松戸市における保育園と幼稚園の将来的なあり方については議論したか。

(事務局)

分科会では、支給認定基準のなかで市町村が決定すべき事項と優先利用のところについてご意見をいただいた。議事を絞っていたため、幼稚園の一時預かりや保育園などについては議論していない。

(石井委員)

今後、議論の余地はあるのか。

(事務局)

今までの議論を踏まえ、計画の中の重点的な取り組みにて、待機児童の解消、幼稚園・保育所(園)・小学校の連携等を記載しており、計画事項としている。また計画策定後も松戸市子ども・子育て会議は続いていくため、毎年のように意見を重ねて深めながら進めていくと考えている。

(石井委員)

放課後児童クラブは松戸市ではNPO法人・社会福祉法人にて進めてきたが、課題が大きいと思っている。提案されている第三者評価委員会、事業者の責任のあり方等、松戸市の放課後児童クラブの将来を考え、今後も子育て会議で具体的に議論したい。

(3) 松戸市子ども総合計画の骨子案について

事務局より、資料に添って説明。

(会長)

資料3の松戸市子ども総合計画の骨子案について、ここで全委員の意見をいただきたい。

(神谷委員)

この計画自体は良いのだが、推進しようとするのが子ども部のみとなってしまう可能性はないか。松戸市役所の全ての職員がこの計画を理解し、推進していこうという共通の意識をもたないと、実現できる計画ではない。計画を推進するため、市役所全体が連携する方策を作してほしい。

(鈴木委員)

P1の国の具体的な取組みは、どちらかといえば子育てをしている保護者側の都合を考えたとように書いてある。松戸市は、キャッチフレーズを「子ども力でつながる未来」としたように、この会議の意見とアンケート調査などを基にして、子どもに視点をおいて考えている。松戸市らしいよいものができたと思う。みんなが繋がって、松戸市を子どもが住みやすい、育ちやすい松戸にするために何ができるかを考えていく。この会議の委員は各分野を代表して出席しているような方なので、この会議をきっかけとしてみんなが繋がり、松戸に育ってよかったと思える街になるような計画を作るのが一番良い。幼稚園も変わりつつある。全ての幼稚園ではないが、保育園並みに長時間預かり保育をし、長期休暇中も預かるような幼稚園もある。保護者の就労に関わらず、子どもが幼児教育を受けるという選択もできる。

(富永委員)

素晴らしい計画ができた。市役所全体の連携によって、これから推進してほしい。P12の重点的な取組みに、障害のある子どもを持つ家庭への支援の充実が入っているのだが、障害児である前に子どもだと思っているので、その視点を持って相談、支援に取り組んでいただきたい。

(永瀬委員)

これまでの意見が、きちんと計画に反映され整理されている。キャッチフレーズの「子ども力でつながる未来」はたいへん良い。基本理念も素晴らしい。本当に実現できるように考えていかなければならない。P12に「学校や家庭だけでは支えきれない子どもへの支援を強化・充実させます」と力強く表現されてうれしく思う。具体的な施策にきちんとおろされ、実現できることを強く願っている。

(成瀬委員)

子どもを中心としてどう育てていくかという基本理念のキャッチフレーズ、「子ども力でつながる未来」はとてもよい。学校だけでできないことを地域で支えていくということは、安心につながる。また、地域の人材が子ども達に豊かな生き方を示唆してくれる。そんな地域力が強調されていてよい。幼小中の連携については、具体化していくことが課題だ。

(野中委員)

地域との連携の大切さ、そこで子どもの力が育っていくということが、しっかりと市の方策として入っているのはとてもよい。上手くいっている例として、中高生と赤ちゃんのふれあい体験は、一般のお母さん・お父さんと赤ちゃんが教育の現場に入っていく、ふれあいことによって中高生も赤ちゃんも親もそれぞれ経験となり感じることもあるという素晴らしい事業である。また馬橋地区では、小中の生徒がいろいろな施設を呼んで中学校に集まり、音楽会をしている。地域での連携を計ろうとする取り組みは素晴らしく、地域の顔が見えてくる。それぞれの地域で具体化していくには、市民のアイデアや力が市とつながっていったらよい。

(細井委員)

量の見込みや確保方策について、保育の質には自信があるものの、ニーズに答えられるだけの働き手の確保というところが現段階で不安が残る。市民の期待やニーズに答えるためには、幼稚園の運営に期待し、共に歩んでいかなければならないと強く感じている。

(森田委員)

P5に子どもや保護者の意向ということでアンケート調査の実施結果がまとめられているが、これから具体的に施策を進めていく段階なので、当事者である子どもや保護者の意向をしっかり汲んで進めていただきたい。気になることは、P8の悩みがあるときの相談相手について、小中高とほぼ同じようなパーセンテージで母親と友達が多いのは想像がつくが、養護教諭を含む学校の先生がずいぶん少ないのにはがっかりした。友達に相談するのは気軽ではあっても、悩みを解決できるかどうか心配になる。先生や大人の方が、悩みを解決できる適切なアドバイスができるのではないかと私自身感じているので、その環境

整備をしていただきたい。

(山口委員)

基本理念の共有、連携というキーワードがたくさんあるが、機械的な連携ではなく、話し合いを深め、基本理念に基づいて子どもを見る目をみんなで共有できれば、松戸市として同じ方向を向いていけると思う。幼稚園の今後の話として、認定こども園という選択肢もあるが、具体的に松戸市としての教育としての認定こども園が向いていく方向を示していただくとありがたい。

(飯沼委員)

総体的な総合計画は素晴らしい。絵に描いた餅にならないよう具体的にどうするかが大きな課題だ。例えば、基本理念の全ての子どもというのは0歳から18歳までの外国人も含めてだと理解しているが、これでは漠然としている。外国人の子どもたちが正常に良い学校生活をおくるための支援、また、外国人の子どもと日本人の子どもの異文化の交流や体験といったことが載っていない。松戸市では英語教育に力を入れていて、5年生から実施されているが、勉強だけでなく、一緒に遊ぶ、一緒に話し合いをするといった体験が大事だ。体験によって初めて理解できることもあるので、国際交流協会などと連携するなどして機会を設けてほしい。

(石井委員)

松戸市子ども総合計画（案）に基本的に賛成。家庭の子育ての力と、親子と一緒に育っていくおやこ DE 広場は特に大切なので、計画に活かしていただきたい。放課後児童クラブの子どもは主に小学校1年から3年であり、この時期の子どもの出会いや交わりによる人間関係の作り方が、大人になっていく出発点と感じているので、そこに目配りできるようにしていきたい。障害の子や配慮しなければならない子も、幼児期から一緒に育っていくのがよい。保護者に対しても、地域で一緒に子育てをしていくことを伝えられるよう考えることが大事だ。

(石田委員)

全体を通して、いろいろなことが網羅されている。障害の子ども、外国人の子ども、特別な子どもというわけではなく、ひとりひとりを大切にできるような私達や市の姿勢をきちんと施策にいかせたらよい。妊娠・出産、乳幼児、学童期、青年期それぞれ課題があるので、その課題にそった具体的な事業になるとよい。社会適応の難しい青少年や養育環境が整っていない子どもには、学習支援や就労支援も必要だが、まずは言動を理解して寄り添うことができる人材が必要であり、子どもの不安や孤立感を和らげることができる。地域の方が関わるといことは大事だが、地域の方々の子育てに関する理解が、増えてはき

ているもののまだまだだと思うので、きちんと連携していくべきだ。

(海老原委員)

P12 の家庭の力の重点的な取組みに、2点追加していただきたい。利用者にとって分かりやすい情報提供の充実と、利用しやすい一時預かりや病児保育の充実。昼間働いている親は、市への問合せの時間も限られており、インターネットで、少ない時間で決め細やかな情報収集ができればよい。Q&A等を充実させることで、様々な方からの市への問合せも減ると思われる。預かり保育や病時保育は、現状はホームページで一時預かりの空き情報を確認できるのみだが、申込みまで完了できるようになるなど、使い勝手の良いサービスを充実していただきたい。今後の推進体制については、神谷委員の意見に共感した。子育て会議で今後も進捗、評価を行っていくということだが、他部署との連携の委員会と、この子育て会議が共に歩んでいければよい形になっていくと思う。

(大川委員)

家庭の子育て力について、保護者が社会資源を有効に活用し、自分自身の生き方を大切にしながら、いきいき子育てができたなら、子どもも安心してのびのびと成長していきける。P7の子どもが期待することにある、山登り等の自然体験、絵画や書道の文化的行事、野球やサッカーなどのスポーツ行事、他の学校や他の地域の子どもたちとの交流等、子ども会行事のなかにすべて入っていると感じた。子どもにとって様々な体験は、自主性や責任感が身につく達成感も味わえるいい機会であるが、時として思いもかけない危険な行動をとることがあるので、子ども会では、危険を予知して回避するトレーニングも研修に入れて活動をしている。P8の悩みがあるときの相談相手については、子ども家庭相談課に専門の相談員がいるので、子どもたちにPRした方がよい。

(大熊委員)

会議にはこの7月から参加しているが、施策の方向と重点的な取組みは、どれももっともなことである。これを具現化するには、行政や関連機関との連携が大事になってくるので、がんばっていただきたい。

(沖委員)

今後の推進について、行政の計画なので行政が推進していくとは思っているが、それだけでなく、ここにいる委員は地域でもそれなりの力を持った方々であるので、半歩でも一歩でも自分達にできることを、行政と一緒にこの計画を進めていけたらたいへん良いと思っている。後で答えていただきたいのだが、消費税が先送りにされたので、この計画に影響があるのか。人材の育成の問題があるが、現状、松戸市で必要な人材が確保しやすくなっているのか。実態がわからないので、懸念している。

(小野委員)

今まで議論されたことが良くまとまっている。P6の未就学児保護者が期待することのまとめとして、小児医療の体制や子どもを守る対策への期待が減り、とあるが、前回のアンケートからパーセントは落ちているが、全体をみると要望としては多い方であるので、これからも小児医療のサービスを充実していただきたい。この結果は、平成18年に夜間小児急病センターができ、保護者のニーズに応えられたことがあると思う。医療費も中学生まで無料または200円ということで、かなり大きな補助が出ているので、このまま推進していただきたい。もう少し進めていただきたいのは、健診(健康診査)の無料の回数の増加である。千葉県は2回だが、7ヶ月検診も無料にしていきたい。おたふくかぜやB型肝炎ワクチンの補助はまだであるので、個々の予防接種の市の補助を増やしていただきたい。P11の小中高生の居場所づくり、子どもが参画する機会を促進するについて、P7に子どもが期待するこのニーズがあり、これはこれで大切なのはよくわかるが、これだけでよいのかなと思う。学校以外でも学ぶ力や社会参加に必要な力をつける学習支援を行う、あるいは大学、博物館、美術館などを見学できる機会を増やす、自分で考える力を手助けしていく、大人がそういう機会を設けることが大切だ。学校や子ども会などいろいろなところで様々な方を呼んで、体験談や子どもの年齢にあった話をしてもらえば、子どもたちにとって新鮮で、こんな世界もあったんだ、こんな体験ができるんだ、今度はこれについて知りたい、考えよう、とつながっていく。

(会長)

本日欠席の斉藤委員から意見が出ている。P11の放課後子ども総合プランの策定とあるが、方向性はどうなっているのか。放課後児童クラブと放課後KIDSルームの区別と、児童館の設置などを含めることを希望する。P11子どもが参画する機会の推進において、新しい事業を期待する。また、評価方法も検討いただきたい。P13地域の力を向上するためには一般市民へのアプローチが必要なので、取組みを希望する。

委員より質問がいくつか出ているため、現時点での説明を事務局にお願いしたい。

(事務局)

飯沼委員のご意見、外国人の子育て支援について、今まで何度も意見をいただいております、重要な課題と認識している。施策の体系の家庭の力、支援を必要とする家庭へのサポートを充実させる、の先の部分として、外国人の子育て家庭の支援の充実ということを検討している。

(飯沼委員)

松戸市として、国際的な教育・理解を子ども子育て会議の中で話し合っているというこ

とを伝えたい。日本では体験が不足している。小さな頃から、異文化を理解する国際的な感覚が大事だということをうたっていただきたい。

(事務局)

神谷委員、海老原委員、沖委員の計画の推進体制について、本編の計画では、計画の推進体制という形で、進めていく組織の形態などを盛り込んでいく予定である。全体的な構造としては、P2にて示しているそれぞれの計画について、この事務局と他計画を策定している部署の事務局と、計画のレベルで調整を始めている。大きなところで計画の連携を整え、不一致がないよう作業を進める。

沖委員の消費税 10%が延期になったことの影響について、国は予定どおり子ども・子育て支援新制度を平成27年4月に施行する方針としており、財源確保については今後調整していくとのことであった。計画に盛り込まれている事業は、国の補助金によるものだけでなく、市で独自に取り組んでいるものもあるため、それを含めた様々な事業について必要な財源を確保しながら取り組んでいきたいと考えている。

沖委員の人材育成に関する確保策について、P13の地域の力の重点的な取り組みに子どもを支援する人材の育成をあげているので、これから計画を作っていくなかで具体的にどう確保していくか検討し記載していきたいと考えている。

斉藤委員の放課後子ども総合プランの策定の方向性について、国の放課後子ども総合プランの全体像の趣旨、「共働きの家庭等の小1の壁を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後 KIDS ルームの計画的な整備を進める」という方針に従う形で進めたいと考えている。具体的には、P15の量の見込み及び確保方策のとおり放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの整備を進めていくと共に、一体的な運用についてもあわせて推進していく。

海老原委員の利用者に分かりやすい情報提供と利用しやすい一時預かりと病児保育の充実について、重点的な取組みではなく、その下の事業の推進の部分に記載することになる。

(会長)

今までの話し合いの中でも出ていた具体的な要望等は、重点施策の下に少しずつ明らかになるよう進めている段階だと思う。次回までに事務局で集約しまとめていただきたい。

以上をもって第6回松戸市子ども・子育て会議を終了する。

3. その他

・次回会議について

日時 : 平成27年1月22日(木) 18:30~20:30

場所 : 議会棟3階 特別委員会室

4. 閉会